

## 成果の説明書

(氏名) 内山 知一	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>まず、感染症の広がりとそれに起因し生じる各種の深刻な事態への措置に迫られる段階がほぼ終わりに近づき、周囲の状況が徐々に収束し以前の状態に近づきつつあるなかで、教職課程でも、講義やそれ以外も含め、以前と同じ状態に戻すところと不可逆に変えていかなければならないところを、ある程度、見極め、変更できた。ただし、外部での実習では、各所在地の状況・時期や赴任先の事情などで、引き続き、インフルエンザも含めた感染症の拡大に伴う臨時の措置などがとられる時もあり、課程履修者には、可能な範囲でリスク低減のための入念な準備を求めた。加えて、地域独自の事情も踏まえて、現場でかかわる方々の判断やそこで求められることが異なることを勘案し、幅広い状況で柔軟に現場に貢献できるスキルなどをはぐくむことに努めた。たとえば、それぞれの習熟の段階に応じて、すべきこと（できること）が異なることを念頭に、各種のオリエンテーションやさまざまな注意事項の伝達、個別の相談・指導、カルテの記載事項の確認などを担い、その時その時で履修者がやらなければならない事柄を明確に意識させ、取り組ませた。また、それらに伴って、課程プログラムなどに携わる担当者と協力しつつその維持・整備を図り、履修者が真に求めるスキルや経験を得るためのよりよい場の創出に努めた。そのほか、複数の委員を務めて担当業務に従事し、さまざまな場での受講者への円滑な支援などに貢献できた。</p> <p>次に、上記の状況の変化による影響も踏まえたうえで、研究面では、新しいプログラム・事例などを幅広く取得・蓄積し、種々の観点でテーマを深く検討できた。特に、授業で扱う個々の事項の認識・解釈をいかに深め、それらを土台に複数での意義ある意見交換につなげるかや、そのための最適な発問は何かなどを吟味し取り組んだ。これらも生かし、ねらいの異なる方法をどんな形で組みあわせて、より効果のある単元を作るべきかなど、さらに広い観点も意識し、検討を深める。</p>	
<p>2 その他の事項</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>これまでは、あらゆる面で感染防止に注力せざるをえず、円滑に免許取得ができる環境の維持のために、実習も含め、いろいろと模索しつつ修正を積み重ねてきたが、これ以降はその土台の上に、引き続き、元に戻すものとそうでないものをよく見極め、時に急激に変わる現状に遅れすぎない形でさまざまなことを整備し、履修者が不利益を被ることのない環境創りに努める。また、現在、上記の背景もあり、各種制度の変更や免許プログラムを取りまく状況も変わりつつあるため、それらも踏まえ、プログラムの更新や講義も含め適切な変更を丁寧にすすめる。次に、研究面では、参加者の授業で扱う事項への認識の深さなどの差に焦点を当て、より効果のある方法・発問などは何かをテーマに検討をすすめたが、引き続き、新たな資料の探索・獲得により、さらに事例などを蓄積し、丹念かつ精緻に意義ある方法などの吟味をすすめる。たとえば、扱う事項・方</p>	

法のそれぞれの特徴も踏まえた組みあわせ方での効果の違いや複数の方法での相乗効果なども含め、より深くさまざまな面で検討を重ねる予定である。